

GLANZLAB



取扱説明書

Bt タイプ

MH-9Bt2.0(MH-9Bt) / MH-10Bt2.0(MH-10Bt)

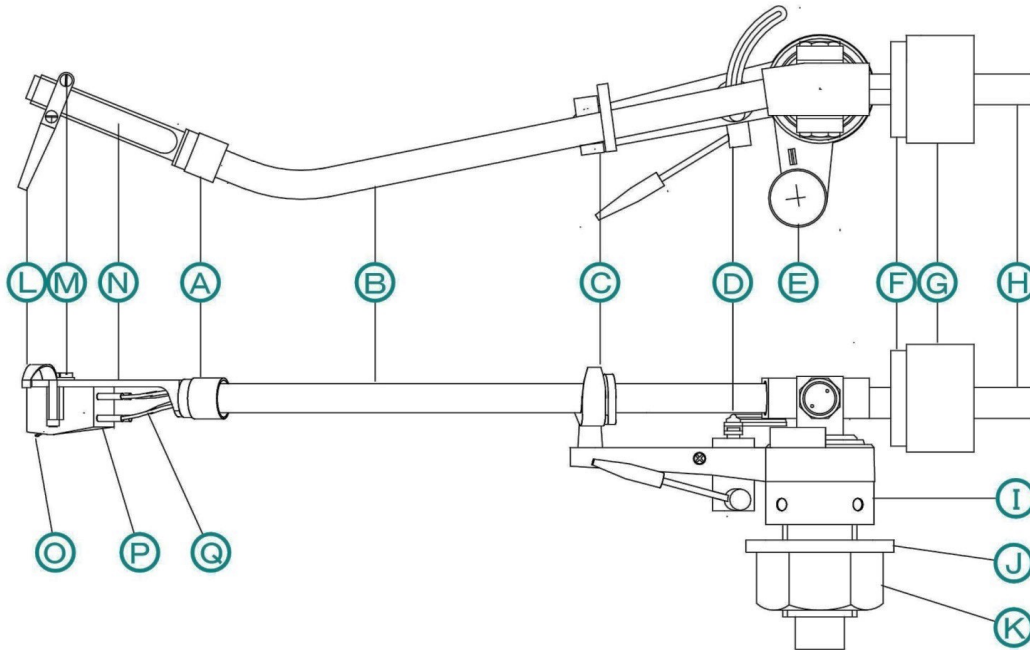
2026.6版

仕様

	MH-9Bt MH-9Bt2.0	MH-10Bt MH-10Bt2.0
1 型式	スタティックバランス方式	
2 全長 (ヘッドシェル含まず)	252mm	277mm
3 実効長 (アームの支点～針先)	229mm	254mm
4 有効長 (アームの支点～ターンテーブル軸の中心)	214mm	239mm
5 オフセットアングル	23°	22°
6 適応カートリッジ (ヘッドシェル含む)	16～43g	14～40g
7 質量	760g	795g
8 オーバーハング	15mm	
9 針圧調整範囲 (直読)	最小目盛0.1g (1周で3g・2周で6g)	
10 高さ調整範囲 (アームパイプ中心まで)	41mm～	
11 ヘッドシェル質量	12g (リード線・ネジ含む)	
12 取付けベース内寸法	Φ16mm	
13 取付け穴	Φ24mm	
14 取付けボード厚	～t29mm	

★本機の仕様は予告なく変更することがあります。

各部の名称

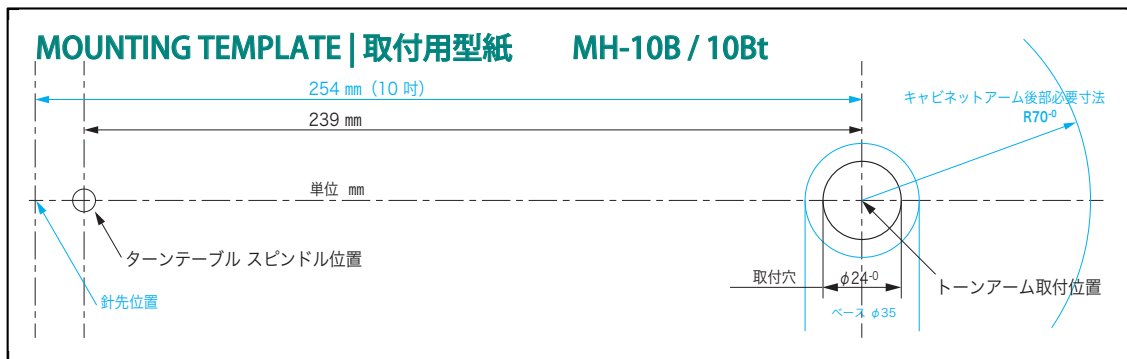


- ①ヘッドシェル着脱ロックナット
- ②アームパイプ
- ③アームレスト
- ④アームリフター
- ⑤インサイドフォースキャンセラー
- ⑥針圧目盛リング
- ⑦ウェイト
- ⑧ウェイト軸
- ⑨アームベース
- ⑩アームベース取付平ワッシャ
- ⑪アームベース取付ナット
- ⑫フィンガー
- ⑬カートリッジ取付ネジ
- ⑭ヘッドシェル
- ⑮レコード針
- ⑯カートリッジ
- ⑰ヘッドシェルリード線

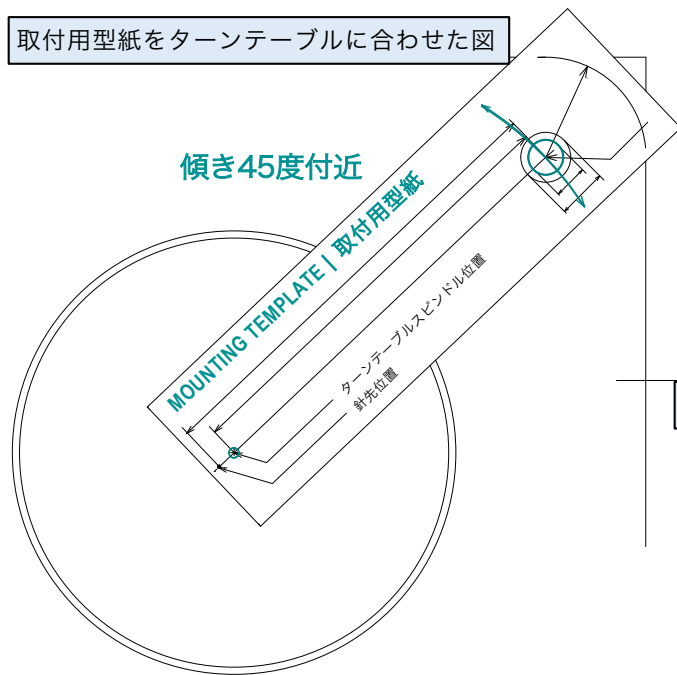
1 トーンアームの取付け

1. 製品に同封されている取付用型紙を使ってトーンアーム支点（取付ネジ部）の穴開け位置を決めます。
2. 取付用型紙左隅の「ターンテーブルスピンドル位置」と示した穴（ $\phi 7\text{mm}$ ）に、レコードを置くターンテーブル中心軸（スピンドル）を差し込みます。
3. ベース取付穴位置はシートを回し上から見て45度付近に決めます。
4. ターンテーブルの中心軸から穴径までの長さは、9吋(MH-9B|9B2.0/9Bt|9Bt2.0) | 214 mm、10吋(MH-10B|10B2.0/10Bt|10Bt2.0) | 239 mmです。

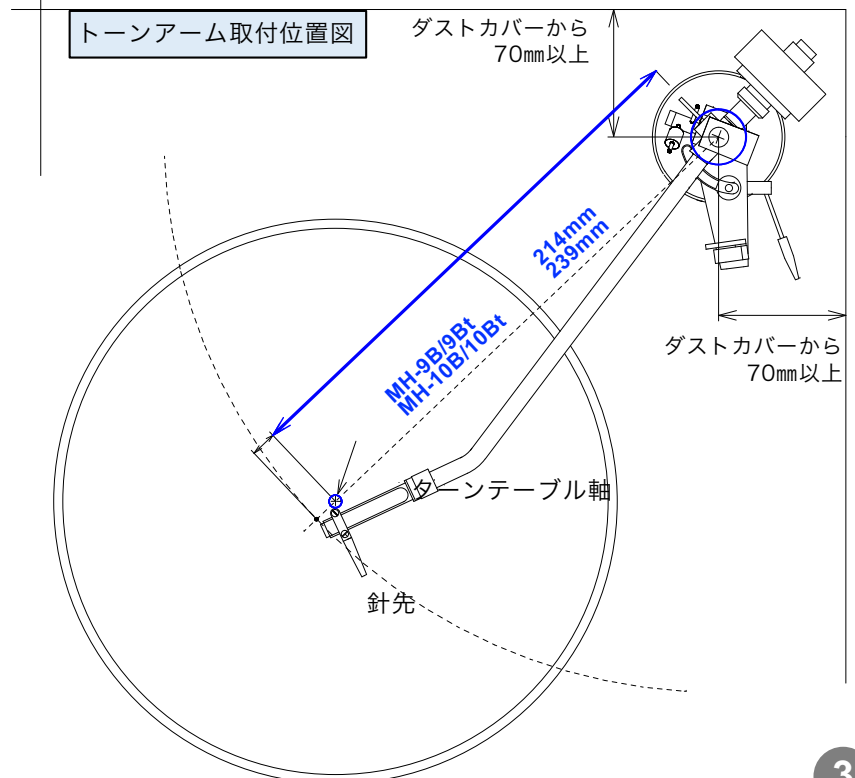
取付用型紙図 *製品に同封されている取付用型紙はアームの長さ（吋）にあわせてあります。以下の図は10吋用の型紙です。



取付用型紙をターンテーブルに合わせた図



トーンアーム取付位置図

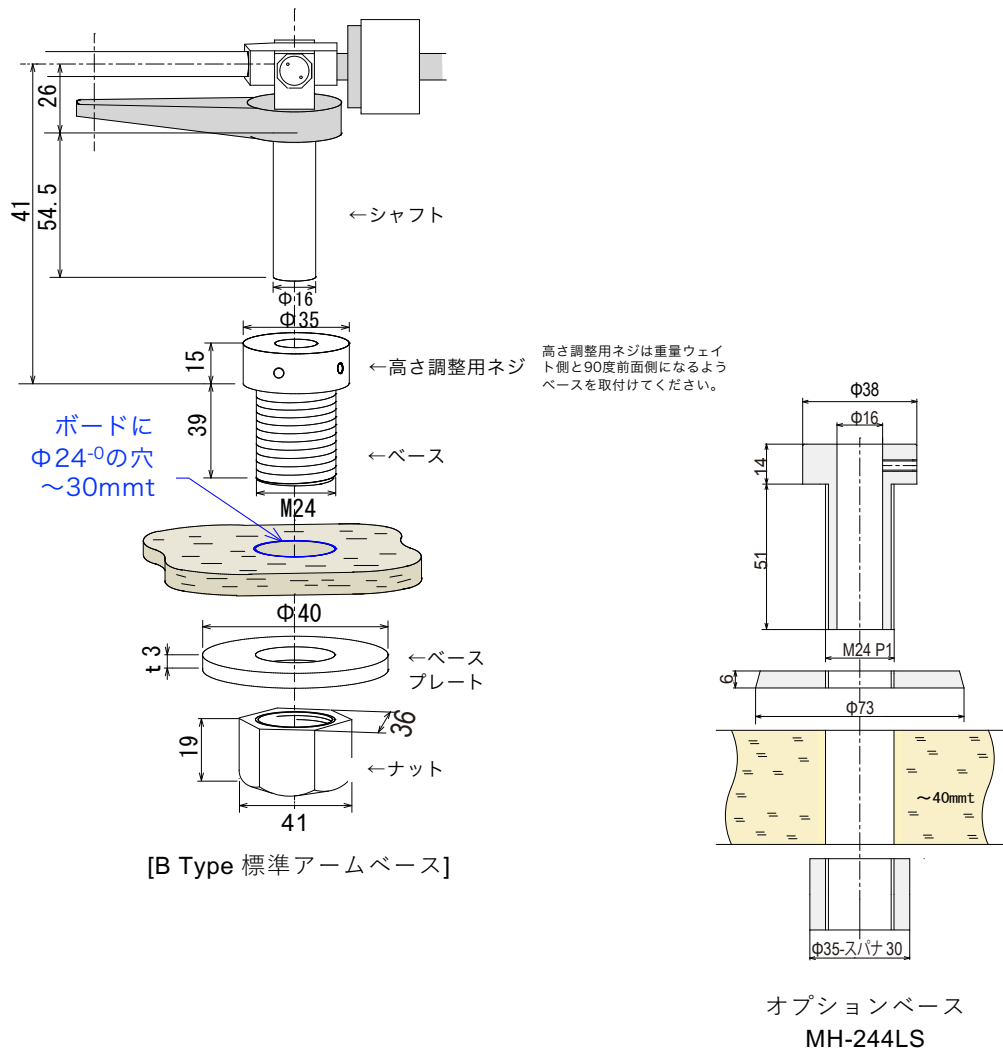


2

トーンアームの取付け

1. ウェイトの後部がダストカバー（ダストカバー付きの場合）に当たらないように、ダストカバー端から縦横とも70mm以上あることをご確認ください。（ダストカバーが無い場合には端からの縦横サイズは気にしなくても大丈夫です）
2. ベース取付ナットが周囲に当たらないか、ナットが締まるか、出力コードが周囲に当たらないかご注意ください。取付ボードが厚くネジの長さが足りずナットが締まらない場合は、ロングのオプションベースをご検討ください [MH-244LS]。オプションベースの詳細寸法は、下図面をご参照ください。
3. トーンアームの水平可動範囲がレコードの内周まであるか、トーンアームが使い勝手の良い範囲で稼動するかをご確認ください。
4. ベースの取付ナットを占める際にはトーンアームに力が掛からないようにしてください（ベースを取り付けた後にトーンアームを付けてください）。
5. 取付プレートに取り付ける方は当社専用のオプションプレート（案内書のオプション部品をご参照）をお使いください。

トーンアーム断面図

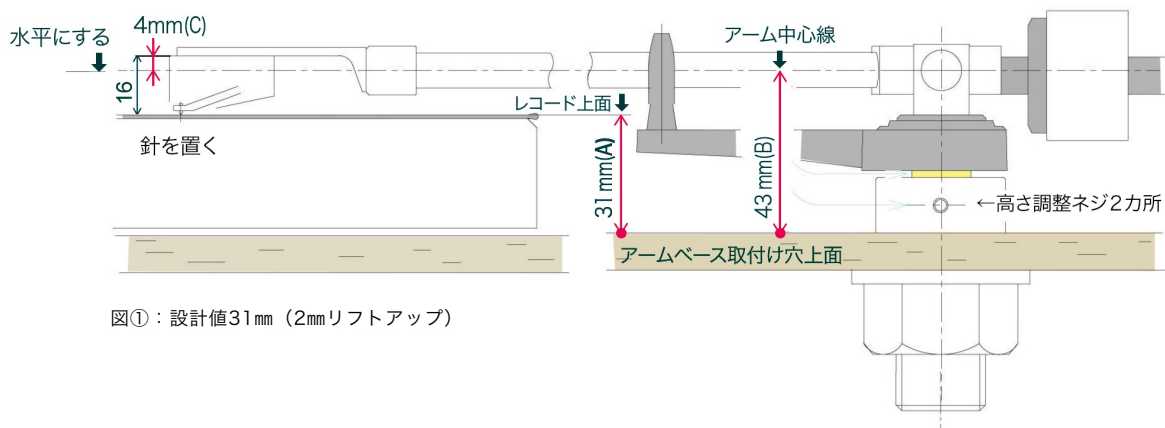


*MH-9Bt/10Btの取付けはBタイプと同様です。図のアームや記載はBタイプになっています。ご了承ください。

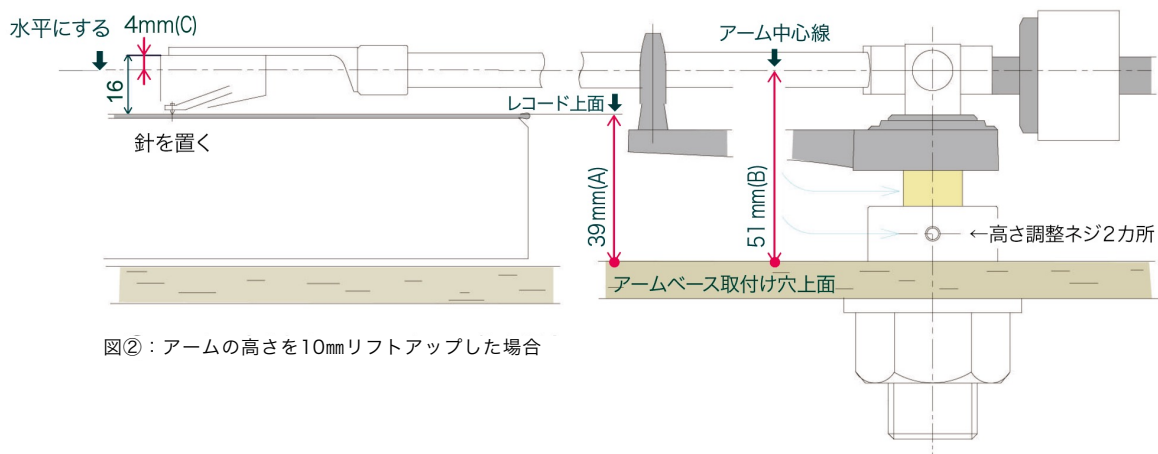
トーンアームの高さ調整

- トーンアームの高さは、レコードの上にカートリッジの針を置いた時に、アームパイプが水平になるように調整します。
- 高さ寸法の調整と確認
 - (1)カートリッジの高さは各社まちまちですが、カートリッジの高さの平均値16mmを基に高さを調整していきます。
 - (2)まず、リフトを2mm上げ、ベース取付穴上面からアームパイプの中心線までの寸法を43mm (図① (B)参照) にします。
 - (3)カートリッジのヘッドシェル取付面からトーンアームパイプ中心までは4mm (図① (C)参照)、高さが16mmのカートリッジを取り付けた場合、 $43 - (16 - 4) = 31\text{mm}$ となり、ベース取付穴上面からレコード上面までの寸法は31mm (図①(A)参照) になります。弊社トーンアームはこの31mmを設計値としています。
 - (4)なお16mmより高さの低いカートリッジ、例えば14mmのカートリッジを取り付けた場合、カートリッジ側に下がりますので、トーンアームを水平にするためにリフトを2mm下げます。(リフトを一番下まで下げた状態) なお、リフトを2mm下げなくても、 $\pm 2\text{mm}$ 程度の誤差であればほとんど音質に影響はありません。
 - (5)また、ターンテーブルが高い場合は、ベース取付穴上面からレコード上面までの寸法で39mm (図②(A)参照) まで、10mmリフトアップして使用もできます。10mmリフトアップすることで、高さの高いカートリッジやターンテーブル上に厚めのシートを敷くこともできます。
- 高さ調整ネジ2カ所 (ベースの横と後ろ) を緩め、アームを持ち上げ、水平確認をします。高さ調整ネジの位置はターンテーブルの反対側が使い勝手が良いようです。
- 高さが決まったら高さ調整ネジ2カ所を締めます。

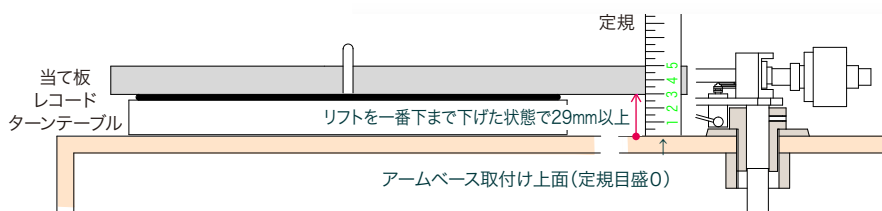
トーンアーム取付・寸法確認図



図①：設計値31mm (2mmリフトアップ)



図②：アームの高さを10mmリフトアップした場合



4

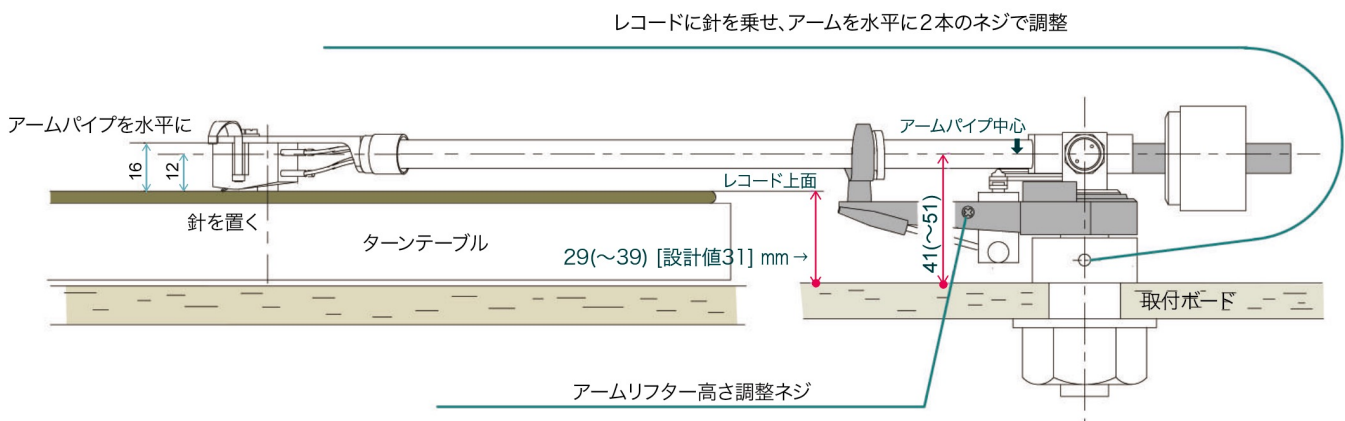
取付後の調整

アームを取付けましたら最後にアームの調整方法をご説明いたします。

1. プレーヤーの水平確認をします。プレーヤー全体が水平になっているか、プレーヤーの高さ調整用足ネジを回して調整します。（お持ちのプレーヤーマニュアルでご確認）
2. 出力コードを差し込みます。そしてトーンアームを仮付けしたらウェイトを回しながら取り付けます。
3. ヘッドシェルにカートリッジを取り付け、アーム先端に差し込み、ロックナットをゆっくり回して締めます。前方からカートリッジを見て、傾いていたらシェルを持って傾きを修正してください。固いようでしたら、アーム先端下側にあるシェル傾き調整ネジをほんの少し緩めて修正してみてください。（P5の6参照）
4. 調整時、IFCの作動によってアームが（レコード外周に）動いてしまうため、IFC目盛を0にしてください。
5. トーンアームの水平バランスは、針がレコードとレスト受けの間の位置で調整をしますが、レコードに当たらないように注意してください。
6. アームレスト受けのロックを外し、ウェイトを回してアームパイプが水平になるようにバランスを取ります。
7. ウェイトの目盛だけを回して目盛値を0にしてください。次にウェイトを回してカートリッジの針圧値に合わせてください（約2gです）。
8. レコードをターンテーブルに置きます。
9. ヘッドシェルのフックをもってレコード盤の上に静かに置きますが、レコード面上に小さな紙を敷きその上に針先を置いてください。
10. アームパイプが水平になるように調整用の2本のネジを再度緩め、高さ調整をしてください。（調整しやすい方のネジで調整し最後にもう片方のネジを止めてください）
11. アームリフターのレバーを上げた状態で針先が5～10 mm位浮いているように、アームリフター高さ調整ネジを緩めて調整します。（レコードを傷を付けないよう細心の注意を払って作業してください）
12. 実際に音を出してレコードの内周に行ったとき、針がトレースできずに内周に持っていかれるようでしたら、IFC目盛を少しずつ上げ針飛びしないレベルで止めてください。（目盛の数値は針圧と同じ数値に合わせるものではありません）

弊社のトーンアームはトレース感度が良いので、IFCは必要なければ0でお使いください。この構造物による歪み音がなくなります。

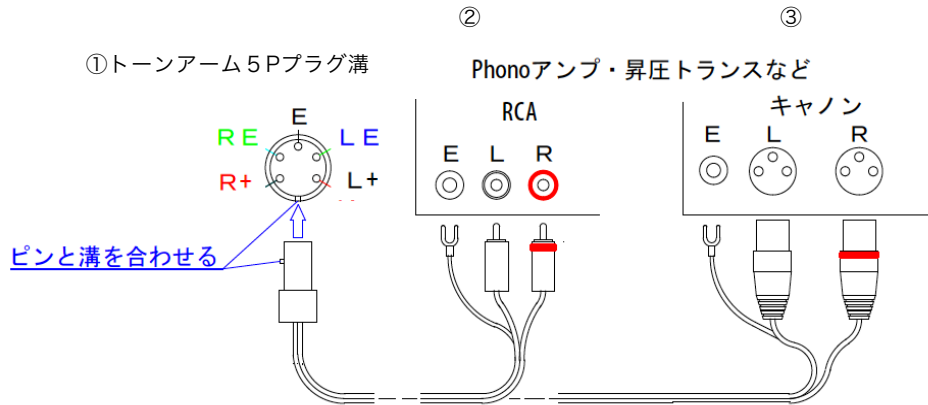
トーンアーム取付完了図



5

出力コードの接続

1. トーンアームの5Pプラグ溝に出力コードのピンを合わせ、しっかり押し込みます（下記①）。
2. ピンジャック（RCA）はPhono端子の付いたアンプに接続。そしてアース線をアース端子に接続（下記②）。
3. ボリュームを少し上げ「ブー音」が出たら接触不良です。カートリッジとヘッドシェルリード線、ヘッドシェルとトーンアームの接続点、トーンアームプラグと出力コードの接続点、出力コードとアンプの接続点を御確認下さい。特にアンプへのアース線を御確認下さい。アース線が接続されていないと「ブー音」が出ます。
4. カートリッジ巻線をボディーアースしてないMCカートリッジなどは、別売のコードでディファレンシャル（平衡）アンプなどに接続可能です。詳細はメーカーまでご連絡ください（下記③）。



6

ヘッドシェルの取付け

1. ヘッドシェルはアームパイプ先端の着脱ロックナットを緩めてヘッドシェルを取付けて下さい。
2. 前から見て傾いていたなら、着脱ロックナット（①）後ろの下側ネジ（②）を緩め、シェルの傾きを修正して、再びネジ（①）を締めて下さい。



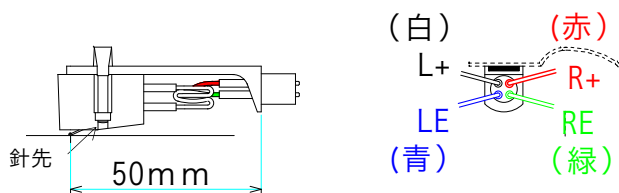
7

カートリッジの取付け

1. ヘッドシェルにカートリッジを取り付けてください。下の図のように針先から根元までが50mmになるようにフィンガーをM2.6のネジで締めます（±2～3mmの誤差は問題ありません）。

注意：このヘッドシェルはカートリッジからの漏れ振動をしっかりサポートする為、カートリッジ本体の心臓部により近い場所にヘッドシェルを固定したスリムな構造になっております。ネジ締めは必要以上に締め込まないでください。繊細なカートリッジが変形することがあります。

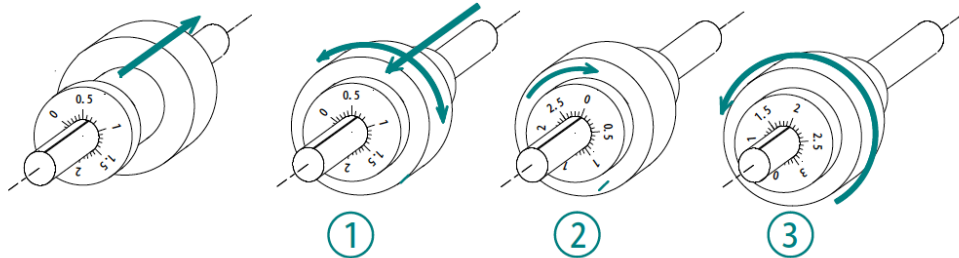
2. リード線の接続は、図のように接続してください。



8

針圧の調整

1. ウェイトを左右に回転させて水平バランスをとってください。
2. 次に、目盛リングだけを回して“0”をカーソルに合わせます。
3. そしてウェイトを左に回して規定値の針圧をかけてください。(目盛の数字はgを表します。5gの場合は1周後(これで3g) さらに2まで回します)



9

インサイドフォースキャンセラー (IFC) の調整

1. まずプレーヤーの水平を水準器で合わせてください。
2. インサイドフォースキャンセラーは、ツマミを回して調整します。(本来インサイドフォースキャンセラーは針圧に比例するもので、針先の形状とレコード盤への接触条件で変動するため、数値は目安です)
3. 内周に針飛びする場合はインサイドフォースキャンセラーを多くかけてください。特に針飛びを起こさないようでしたら、インサイドフォースキャンセラーは少なめでも構いません。

